

日本エム・イー学会平成14年度第2回理事会議事録

日時：平成14年7月12日（金） 14：00～17：00

会場：フォーレスト本郷

<出席者>

会 長：上野照剛

副会長：赤澤堅造、安藤謙二

理 事：石原 謙、稲田 紘、神谷 瞭、楠岡英雄、砂川賢二、辻岡克彦、山越憲一

監 事：千田彰一、戸川達男

大会長：野瀬善明（16回秋季大会）、佐久間一郎（42回大会/代・北島 顕）

前会長：佐藤俊輔

オブザーバー：槍田 勝（代・荻野和郎財務理事）

支部長：田中邦雄（北海道）、米澤義道（甲信越）、飛松省三（九州）

幹 事：伊良皆啓治、岩坂正和

事務局：高柳 建

<欠席者>

理 事：荻野和郎、北島 顕、佐藤正明、土肥健純、仁田新一、福井康裕、星宮 望、山本克之

特別委員長：岡田正彦（論文誌）、小野哲章（CE）、梶谷文彦（ME 研究推進）

支部長：山内一信（東海）、佐々木和男（北陸）、寺本 滋（中国・四国）

1. 理事会成立が確認された。
2. 平成14年度第1回理事会議事録（14-1-3）が承認された。
3. 会員：入退会希望者リストが回覧され、これらについて全件を承認した。この結果、正会員30名増で3,491名、準会員34名増で351名となった。維持会員の数は、変動なしで36社58口である。また以下の事項が回覧された。
 - ・ 文部科学省研究振興局、厚生労働省大臣官房厚生科学課
 - ・ 疫学研究に関する倫理指針の施行等について（通知）
4. 財務：佐藤俊輔前会長より、次の通り財務改善案に関する説明がなされた。5つの改善策（14-2-5）に沿って議論が交わされた。まず、会費滞納者の退会処理の実施について、何年以上滞納者を自然退会にするかどうかについて議論がなされた。どの時点を滞納とみなすかについての解釈をはっきりさせることが重要であり、4年にするか3年にするか討論がかわされた後、2年で会誌送付を停止し3年以上の滞納者を自然退会とすることに決定した。これに伴い、学会誌印刷部数の削減と会費規定の修正の検討も行うこととなった。支部費の削減については20%削減することで了承された。また、専門別研究会における補助費について、今年度1研究会当たり従来の15万円から10万円へ削減することが承認された。専門別研究会の活発度に差があるため総額を一定にして頭打ちにし、研究会間で競争させてはどうかなどの意見が出され、来年度以降の専門別研究会への補助費のあり方について、学術担当での検討を進めることとした。雑誌の送付を第4種郵便にすることででも了解が得られた。選奨は学会負担でないものもあるが、それ以外の選奨項目における経費削減について選奨担当で検討することとなった。雑誌の発行回数の削減についてはまだ編集委員会での詳細な検討を要するが、今後ホームページの拡充と合わせて電子出版の経費と比較しながら進めていくこととした。なお、FMBE誌を和文雑誌と合冊させる案も提出された。学会から春秋大会への補助金については、大会の収支状況に応じて補助金額の枠内で返還の必要性も議論された。残された課題について次回（11月）の理事会に報告するものとする。
5. 平成15年秋と16年春の大会の場所の検討が議題として上げられた。過去の体会長リストを参考に推薦を理事の間で受け付ける。
6. ME技術教育：稲田理事より、ME技術実力試験の変更点が提出され承認された（14-2-7）。今後、ME基礎論、ME機器論各々における科目合格制度の導入を実施し、各科目の合格有効期間を3年とする。
7. 応報：赤澤委員長より委員会委員リストが提出され、承認された。（14-2-8）
8. BME編集：楠岡委員長より委員会委員リストが提出され、承認された。（14-2-8）
9. 国際：辻岡委員長より委員会委員リストが提出され、2～3名の委員入れ替えが報告され承認された。（14-2-8）。また、平成14年12月のシンガポールでの国際学会 Asia-pacific meeting の締め切り延期が報

告された。

10. ME 研究推進：委員会委員リストが提出され、承認された。（14-2-8）
11. 国際誌編集：委員会委員リストが提出され、承認された。（14-2-8）
12. クリニカルエンジニアリング（CE）：委員にメーカー関係者をもっと入れるための努力を行うことが提案され、ME の産業界との接触、結びつきをこれまで以上に強くする必要性が指摘された。企業への積極的なかわりありのため学会の制度も検討し、特に日医機協との関係も強くする。出席者から意見が求められ、鎗田氏（代・荻野理事）から「日本光電はME 学会を非常に重要視している。」とコメントが出された。一方、辻岡理事から ME 学会に興味を示す大企業が少なくメーカーが離れていっているのでは、との意見もだされた。その他、戸川監事から「エム・イー学会に対するメーカーの対応をもっと詳細に分析してみないとわからない。」、山越理事「メーカーに対する ME 学会の宣伝が不足しているのでは？企業の方が ME 学会の存在を知らない。」、砂川理事「単に広報するだけでは効果がない。問題はいかにして人を集められるかだ。」「野瀬秋季大会長「社会的に求められている研究テーマに我々の学会自身がシフトしていくことが重要だ。」、飛松九州支部長「M 系より E 系が多い。企業にとってメリットがない点について検討すべきだ。」、石原理事「厚生労働省へのはたらきかけが最も重要ではないか？」、など、活発な議論が交された。上野会長から、メーカー関係者のエム・イー学会への勧誘を今後どうやったらいいかの処方箋を理事会・CE 委員会で考えて頂くことが提案され了承された。
13. 医用研：設立準備委員会安藤委員長より委員会委員リストが提出され、承認された。（14-2-8）
14. 教育：教育委員会委員リストが提出され、承認された。（14-2-8）
15. 選奨：選奨委員会委員リストが提出され、承認された。（14-2-8）
16. 野瀬第16回秋季大会会長から、日本エム・イー学会秋季大会（福岡、2002年11月14～16日）の開催準備状況の説明がなされた。（14-2-17、追加資料1）参加者各位が新しい研究テーマを発見して頂くことを目指した構成となっている。医療情報学会との共同開催となる。
17. 佐久間氏（42回大会北畠頭大会長の代理）から、日本エム・イー学会大会（札幌、2003年6月3日～5日）の開催準備状況の説明がなされた。（14-2-18）2名のノーベル賞受賞者（日本および米国）の招待講演を検討している。
18. 辻岡理事（国際）より、IFMBE（国際ME学会）の来年シドニーで開催される際の次期会長候補（**president elect**）と理事の推薦の件について説明がなされた。次期副会長候補として日本から菊地眞前理事が推薦されることとなった。また、次期日本代表理事として辻岡理事が推薦された。
19. 梶谷 ME 研究推進特別委員長の代理として、佐藤前会長より文部科学省科研特定領域フィジオームの申請が落選したことが伝えられた。
20. 医科機械歴史博物館への寄付依頼があったことが説明され、2口（10万円）の寄付を行うことが了承された。
21. その他：
 - ・ 今後のメーカーと学会の接点を強化するため、日医機協の宅間豊氏に理事会にオブザーバーとして参加されることを依頼することが承認された。
 - ・ 上野会長（日本学術会議人間と工学研究連絡委員会医用生体工学専門委員会委員長）より、日本学術会議関連の事項として、平成3年1月20日（月）に東京大学山上会館において ME フォーラムを開催する件の報告がなされた。
 - ・ 砂川理事より、厚生労働省科研の公募テーマとして「身体機能補助（フィジオームも含む）」が採択されている現状が紹介された。

（配布資料）

平成14年度第2回理事会議題

- | | |
|---------|--|
| 14-2-3 | 平成14年度第1回理事会議事録（案） |
| 14-2-5 | 財務委員会の提案する財務改善案 |
| 14-2-7 | 第8回第1種ME技術実力検定試験 |
| 14-2-8 | 社団法人日本エム・イー学会 平成14年度各種委員会一覧 |
| 14-2-17 | 第16回日本エム・イー学会秋季大会 |
| 14-2-18 | 第42回日本エム・イー学会大会準備進行状況 |
| 14-2-19 | 医科器械歴史博物館（仮称）建設・運営費寄付のお願いにつて（ご依頼） |
| 追加資料1 | 第16回日本エム・イー学会秋季大会 会場使用方法（アクロス福岡と東急インの使い方（案）） |